

タイトル..

『汐製菓会社の新作89 ヌガー4』

ジャンル..

コメディ

作品時間..

70分

シーン..会議室 | 発案(約15分)

(会議室で、汐が秘書の塩田に「ヌガー4」を提案している。)

汐「塩田くん、ついに完成したぞ。我が社のイノベーションの象徴、ヌガー4だ！」

塩田「またとんでもないことを…一体今度はどんな味なんですか？」

汐「タコスだよ、塩田くん。ヌガーにタコスの風味をプラスしたんだ！」

塩田「ヌガーに…タコスですか？それって、誰が食べるんでしょうか？」

汐「塩田くん、何事もチャレンジだよ。既存の枠を超えたものを作る、それが我が社の使命だ！」

塩田「（小声で）前回の“生ハム風味チヨコ”もそう言ってましたよね…」

汐「あれは…ちょっと早すぎたんだ。市場が追いつかなかっただけさ！今回は違うぞ、誰もが驚き、虜になる味なんだ！」

塩田「本当ですか？お客様に試食していただく際の反応が怖いですけど…」

汐「そこだよ、塩田くん。驚きと好奇心が合わさることで、人は『おいしい』という新しい感覚を見つげるんだ。」

塩田「…分かりました。では試作を始めるよ
うに、開発チームに伝えておきます。」

汐「いい返事だ！ついでに、君も味見してみた
まえ。想像を超える味だから！」

（塩田は内心不安げにしつつも、汐の情熱に
押される形で開発チームへ伝えることを決意
する。）

シーン2：開発室　ー　プロトタイプ作り （約20分）

（開発チームが「ヌガー」の試作品を作りな
がら、戸惑いつつも必死に奮闘している。）

山田「さて、どこから手をつけるか…まずはタ
コスの風味とヌガーの甘みをどう調和させる
かな。」

佐藤「（半信半疑で）ヌガーにタコスって…本当にウケるんでしょうか…？」

山田「分らん。だが、社長の意向だ。彼の発想は時々どこか飛び抜けているが、我が社のヒット商品もそのおかげで生まれてきた。」

新人社員の「でも、タコスの味にするなら、スパイスを多めに効かせるのがいいんでしょうか？チリパウダーとか…」

佐藤「…いやいや、それじゃ辛すぎるんじゃないか？ヌガーの甘さとケンカしないようにしなきゃ。」

（試行錯誤しながら、何度も味を調整するが、なかなか納得のいく味に辿りつけない。）

山田「よし、甘さを強めにしてスパイスを控えめにしてみよう。「これならどうだ？」

佐藤「一口食べて（うわっ、甘いけど、あとからスパイスがくる…いや、でも意外とクセになるかも？」

山田「（不安げに）これが世間でどう受け取られるか…まあ、社長が試食会で判断してくれるだろう。」

塩田「皆さん、大変お疲れ様です…（自分も試食して）うっ…す…い…これはまさしく社長が喜びそうな味ですね…」

（塩田が試作品を汐に報告し、国内外での試食イベントの準備が進められる。）

シーン③：国内試食イベントー東京会場 （約25分）

（東京の試食イベント会場。さまざまな世代の人々が参加している。）

司会者「皆さま！こちらが汐製菓が誇る最新作、『ヌガー』です。今までにない甘さと辛さの絶妙なハーモニーをお楽しみください！」

女子高生「えっ、タコス味？そんなのあり得ないじゃん！」

男子大学生「めっちゃ変わってる。食べてみようぜ！」

（次々と試食し、驚きの反応が飛び交う。）

女子高生「えっ、何これ、最初甘いのに…後から辛くなってくる！なんか…ハマるかも！」

男子大学生「なんか不思議な味だな。でもインパクトはすごいよ。インスタに載せたらバズりそう！」

食品評論家・田中「（味わいながら）ふむ、確かに一風変わった味だが…食べているとクセになるのがわかる。意外性がある。」

中年女性の「なんか珍しいわね…子どもには
どうかと思うけど、大人には案外ウケるか
も？」

(塩田が会場を回ってお客さんの反応を聞き
取っている。)

塩田「(心の声で)…お客様が喜んでいる？
まさか、これほどまでに好意的な反応が出る
とは…」

若者ロ「(友人に)おい、これおもしろいから、
みんなにもすすめようぜ！」

老夫婦の妻「最近のお菓子は進んでいるのね
え。昔はチョコレートだけで満足していたけ
ど。」

老夫婦の夫「新しいのもいいもんだな。これ、
気に入ったよ。」

塩田「…意外とウケてるんですね、本当に
…！」

シーン④：海外試食イベントーフランス・
パリ会場（約30分）

（パリの試食会場。汐と塩田が訪れている。フランス人美食家や観光客が集まっている。）

司会者（フランス語）「皆様、日本から到着したばかりの『ヌガー』をお楽しみください。タコスの風味を持つヌガーでございます！」

フランス人美食家・ピエール「日本人は、実にユニークだね。どんな味か試してみよう。」

イタリア人観光客「私も挑戦したい！タコスの風味のヌガーなんて聞いたことがないよ。」

ピエール「（一口食べて）ほう…最初は甘い
が、後からじわりと辛味が来る。なかなか独特だ。」

イタリア人観光客「意外とクセになるな。ワインに合いそうだ。」

アメリカ人観光客「これは面白い！新しいエンターテイメント菓子みたいな感じがするね。」

（塩田が外国人たちの反応を見ながら、内心驚いている。）

塩田「（汐に）社長、本当に…ウケてるみたいですね。」

汐「見たまえ塩田くん、みんなが楽しんでいるだろう？これが私の狙いさ！」

（次々とフランス人たちが「ヌガーヤ」について語り合う様子が続く。）

フランス人女性「甘さの後に訪れる辛味が新鮮で、何とも言えない魅力ね。」

ピエール「やはり日本のお菓子文化は興味深い…」

イタリア人観光客「何とも不思議だが、もう一口食べたいと思わせる。クセになる味だ。」

（塩田と汐が成功を確信し、次のプロジェクトへの期待を語り合う。）

**シーン⑤：成功パーティーー 本社ホール
（約20分）**

（本社での祝賀パーティー。社員や関係者たちが集まっている。）

司会者「皆さん、本日は『ヌガー』の成功を祝して、乾杯いたします！」

社員一同「乾杯！」

塩田「（汐に）社長、本当に皆さんからの反応が良かったですね。」

汐「まさに成功だ。やっぱり思い切って挑戦してみるもんだな！」

社員A「社長のアイデアには驚かされっぱなしですが、「こうしてうまくいくと嬉しいです！」

社員B「次はどんな商品になるんでしょうね？ちょっと怖いですが楽しみでもありません。」

塩田「…でも、次こそは普通の味でお願いしたいですね、社長？」

汐「ははは！そんなのはつまらない！次は何がいいかな…そうだ、フルーツサンド風味の唐揚げヌガーなんてどうだ？」

社員一同「（笑いながら）またですか、社長！」

（みんなの笑顔と共に幕が閉じ、映画が終了する。）